

令和7年度新入生保護者説明会 校長あいさつ資料

熊本市立田迎小学校長 藤本 邦昭

1 ようこそ田迎小学校へ

田迎小学校は、1875（明治8）年開校、創立150年の伝統ある学校です。詳しくは学校ホームページをご覧ください。HPには、行事予定や連絡事項、子供たちの毎日の様子が載っています。ご覧いただくと1年間の学校生活の見通しが立ちますよ。（→）



2 学校教育目標

創造性のタネをもち、自律する未来人の育成

○育成をめざす資質・能力

→【自律心と論理的思考力と協働的解決力】

- (1) 自律心～Autonomous mind ①自己肯定感・有用感の育成 ②規範意識が身につく授業実践
- (2) 論理的思考力～Logical thinking ability ①活用できる学力の育成 ②アウトプット型授業
- (3) 協働的解決力～Collaborative solution ①コミュニケーション能力育成 ②STEAM 教育実践

【登校する】

「山」は古来より「神聖なもの」として、信仰の対象になったり、心身を鍛える場所になったりしています。今も登山に魅せられる人は少なくありません。

「登る」ということと言えば、「学校」も登る対象になっています。子どもは朝から「登校」…学校に登ってくるのです。

どうして「登校」というのでしょうか？

それは、本来、学校とは、高尚なものであり、知を学び、心身を鍛える場所であったことを意味しているからなのです。学校設立の本来の目的には、当然アミューズメントの要素も快適さもありません。

あえて言うならば、もともと学校は「不便さ」「不快さ」を通して、頭脳と精神と身体を鍛える場所なのです。「小さな社会」とも呼ばれる教室で、自分と価値観の違う人に出会い、人間関係を築きながら生活する。時にはトラブルや壁に出会い、問題解決を通して、思いやりや折り合いの付け方を学んでいく…。

子どもは学校・教室でこそ、将来にわたって自力で「生きていく力」を身につけていくのです。責任をもって学校に送り出す覚悟をすることが親になることであり、学校の意義を我が子に伝えるのが親のつとめなのではないでしょうか。

「登校」そのものにストレスがかかることもあるでしょう。

しかし、ストレスをとり除くことが親の愛情ではなく、その気持ちにしっかりと寄り添い、しかし流されず、「鍛える場」へ誘うことができるのが、我が子の成長を願う親だけがもつ愛情なのです。

家庭・地域そして学校が共同経営体となり、将来泣かずに済む子どもをはぐくみましょう。

※学校は楽しいところではない。楽しむところである。

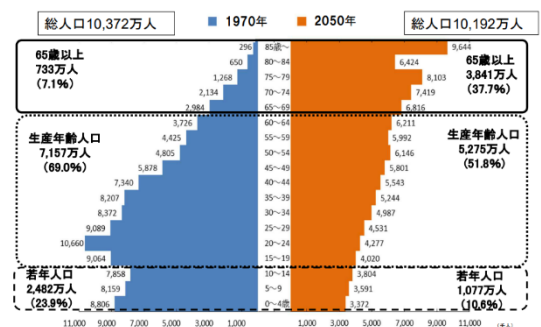
3 学校と家庭の共同戦略

変化の激しい社会とその

対応

2050年に日本の人口は1億人に減り、高齢（65歳以上）化率は35%を超えるといわれています。定年がなくなる人生100年時代を支えるAIやICTへの対応が求められます。

→学び続ける人に！ 自分で考え、判断し、行動できる人に！



国土交通省 HP

夢中は努力に勝る！

デジタル・
タトゥー問題

(1) 好奇心＝考える力 を育てる

☆知的な好奇心を大事にしましょう。「好き」にまさるモチベーションはありません。

☆家庭に、辞書（紙）・地図・ハンドメイドのもの →本当に必要？小学生に個人のスマホ…

iPhone 端末をはじめ、Twitter、TikTok、Facebook、Instagram などの SNS や YouTube は「**13 歳以上が利用できる**」と利用規約にあります（LINE は 12 歳以上、ゲーム；フォートナイトは 15 歳以上）。

学校の iPad 端末は、「認可済み教育機関によるリクエストによって Apple ID が発行された」ことで利用可能になっているのです。

なぜこのような規約になっているかといえば、アプリやコンテンツ、動画の長時間視聴などが「幼児・児童」の脳の発育に悪影響を与えることが分かっているからです。

『年齢制限』～2021.10 学校便り

●小学生が、キックボードに乗っても、電動キックボードには年齢制限があって乗れません。電動キックボードを親が買い与えて、子どもが公道で事故を起こせば、学校ではなく警察（交通課・生活安全課等）の取り扱いになります。

スマホや SNS も同様です。SNS のトラブルは学校では扱えません。即、警察案件です。

※インターネット利用時間と学力の関係

(2) 人間関係調整力（コミュニケーション力）・自己肯定感 を育てる

☆自分がされていやなことは、人にいわない。人にやらない。→モラル（道徳心）の育成

☆人間関係はトーナメント戦ではなく、リーグ戦（一発勝負で友達関係をつくらない）。

人間関係調整力は「自転車乗り」と同じ。→転びながら身につけていく。そして、一生もの

☆スモールステップで設定した課題をクリアさせ、**【過程】**をしっかりと「ほめる」！

→成長のベースは、安心できる家庭と**自己肯定感**（「自分が好き」という感情）。

日本は、諸外国に比べ、若い時から人に相談しない割合が高く、それは年齢が上がればさらに顕著になることが示されています。

これは、「人に迷惑をかけてはいけない」という【**消極的道徳**】の影響で、「相談すると相手に迷惑がかかる」という考えが強いのだと思われます。

日本では「報連相（報告・連絡・相談）」を徹底するという呼びかけがあらゆる職場でなされていますが、海外では、当たり前なこと過ぎて、誰も「報連相」などは言わないそうです。

「自分も迷惑をかけるけれども、困っている人がいたら助ける」という【**積極的道徳**】が文化としてあるからです。

例えば、アメリカでは災害や急病で困っている人を善意で助ける場合に、その結果がたとえ失敗であったとしても責任は問われないという法律があります。

『積極的道徳』～2021.09 学校便り

(3) 先生を「好き」に～フィンランドは、教員の地位を医者と同等に引き上げて、「学力世界一」に

☆「子どもをダメにする最高の方法は、一番長い間、接する指導者（教師）の悪口を言うこと」

子どもが担任の先生が好きなら、勉強も友達も学校生活もみんなうまくいく！

SNSでも先生批判はしない。

子どもは電化製品ではない…クレームではなく相談を！

★本校の先生方の「よさ」「がんばり」はHPに「保護者の声」を載せています→

※6年間で多くの先生から多様な学びを！



1、先生や学校の悪口は子供の前で言わない。

子供が平日起きている時間は、家よりも学校にいる方が長いです。中でも、担任の先生は8時間近く接しています。おうちの方が学校・先生のことを信頼し、好意的に感じてくれれば、子供たちも安心して学校で生活できるはず。学力も伸びます。

同様に、学校でも子供の家族の悪口は絶対に言いません。これが共同経営者としてのモラルです。

2、クレームではなく【相談】をしてください。

学校は未熟な子供たちが集団生活をするとこです。子供同士のトラブルや困りごとは、あって当たり前です。また、子供は「全部ウソではないが、正確ではない」ことも話します。学校では、困りごとやトラブルには丁寧に対応し、解決策を見出します。

ご家庭でも気になることがありましたら、遠慮なくご相談下さい。

子供は、電化製品のように工場からやってくるのではなく、家庭から学校へ登校し、学校から家庭へ下校します。トラブルや困りごとがあっても、どちらか一方だけの責任になることは少ないはず。

同様に、学校からご家庭にクレームを言うことはありません。これも共同経営者としてのモラルです。

『2つのお願い』～2021.04 学校便り

→「子どもを信じること」≠「子どもの言うことを鵜呑みにすること」

※基本的に子供は自分に都合のいいように話します。

「見分け方」 ①前後の話を聞く ②2回以上同じ質問で状況を聞く

「かしこい対応術」 一緒になって慌てふためかない。子供にイイカッコしない。 NG「お父さん（お母さん）が学校に文句言ってやる」 → 子供は「親を使うこと」を学びます。

(4) 先回りしないことが愛情

☆親の3K＝過保護・過干渉・過剰期待からの脱却

★トラブルは成長のチャンス

- ・子ども同士のトラブルにやたらと介入しない。
- ・自分で乗り越える成長のチャンスをつぶさず、ささえる。

※いつまでも親は子どもをかばえない。「上司がいやだから、会社に行かない」ってアリ？

【「叱らない」が子どもを苦しめる（ちくまプリマー新書）】によれば、子供の成長に不可欠なものは「世界からの押し返し」といわれる【思い通りにならない事態】なのだそう。

子供が自分のいやな状態と向き合わず、子供にとって不都合なことを親や大人が代わりに排除してきた状況は、子供に「世の中は、何でも自分の思い通りになる」という誤った万能感を与えてしまいます。こうなってしまうと本当に不幸です。生きていく上で思い通りになることなんて少ないのですから、毎日が不満だらけになってしまいます。そして、残念なことにそういった人は日本でも着実に増えています。 『世界からの押し返し』～2024.11.学校便り

※子を想う親にできること

1. 子供に「隙（すき）」を作らないこと

- 「間」の取り方（気が合わないことの距離の取り方・・・拒絶ではなく距離を取る）
- 「立場」の交換（いじめる側もスキだらけ…愛情不足）
- 「いやなことはおきても解決できる」と思えること

2. 子供の「応援団」を作ること

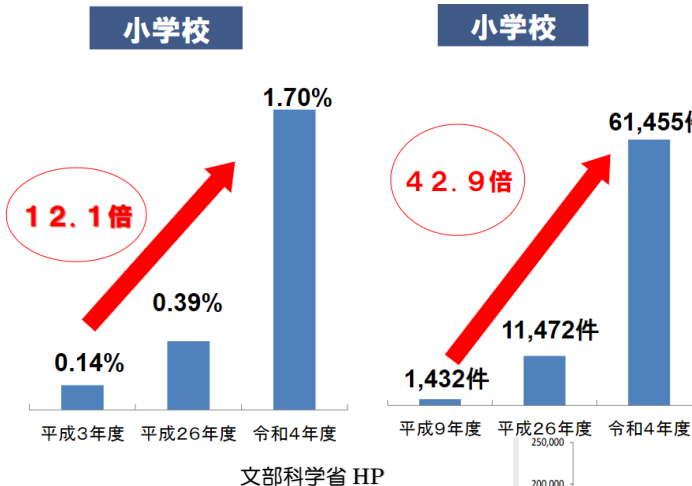
- いつまでも親だけが支援・援助・助力をしてあげることはいできない
- 「あいさつ」「ルール順守」「マナーアップ」…おもいやり（情けは人の為ならず）

【参考資料】

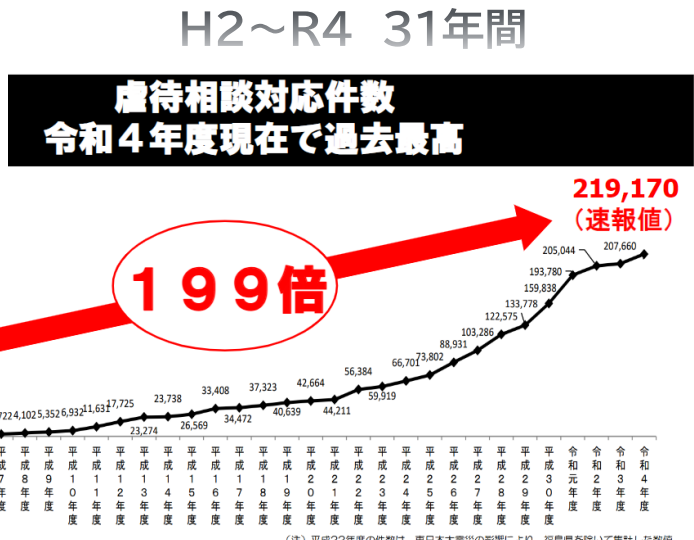
「勉強中につかうアプリの数が多ければ多いほど、学力が低い」のです。
 心理学の世界には「スイッチング」という言葉があります。これは、パソコン作業と SNS の並行利用が与える悪影響の研究から生まれた概念です。
 「何かに集中しているとき妨害が入り、別のことをやり始めること」が「何度も」繰り返されて、1つのことに集中する時間が極端に短くなる状態をいいます。
 TV や動画をみながら、スマホに目を移すことはありませんか？また、スマホを片手に、家事をしていることはありませんか？同時に複数のタスクをこなすことは、ビジネスマンには欠かせない能力ですが、スマホやタブレットというスクリーン機能に関して言えば、スイッチングは「集中力」をそぎ落とす刃物のような怖いものです。
 動画配信が全盛の今でも、人々が映画館に足を運ぶのは、きっと大型スクリーンによる迫力ある映像を楽しむこと以上に、「スイッチング」を強制的にカットできる環境がつかれる、つまり集中して楽しむことができるからではないでしょうか。
教室にじっと座ってられない、集中して取り組む時間が短い…といった子供たちは、おうちの中でスイッチング場面が動画視聴やゲームの時に多いのかもしれない。
 『スイッチングの恐怖』～2022.11 学校便り

不登校割合

学校内での暴力件数



文部科学省 HP



子ども家庭庁 HP

(注)平成22年度の件数は、東日本大震災の影響により、福島県を除いて集計した数値。

田迎小学校からのお願い

校長 藤本邦昭

平素より本校教育活動にご理解とご支援をいただきありがとうございます。

また、「未来人」である子どもの育成に関しまして『共同経営者』としてご協力いただいていることに心より感謝申し上げます。さて、本校の学校運営に関わりまして、以下のことについて確認とお願いがございます。

1. 車での来校に関して（危険防止）

子どもの送迎は、歩行での登下校が難しい場合のみ、許可証を発行して構内への乗り入れを許可しております。「放課後デイサービス」の送迎車にもお願いしているところですが、構内に入られる際は、登校中の子どもやボランティア活動中の子どもの安全に十分配慮をして徐行してください。

2. 職員の勤務時間に関して

本校の勤務時間はおおむね、8：10～16：40となっており、途中、昼休み時間（20分）と16：10～16：35（25分）に休憩がはいられます。

しかしながら、現実的には、子どもが学校にいるときは休憩などとれません。毎朝、早い子は7：35頃には登校してきます。担任は午前中、4時間（4教科）の授業を行い、途中、体調不良やケガの子の対応も入ることがあります。昼休みもトイレに行く時間も惜しみながら、子どもの課題やノート、連絡帳の点検・返事などに時間を当てます。（私も1年生担任の頃は丸1日トイレに行けず膀胱炎になりかけました…）午後も1～2時間の授業を行い、夕方電話連絡や採点などに追われ、落ち着いて授業準備に取り組むこともままなりません。また、休日に行われる活動もボランティア業務として、手当ても代休もありません。

昨今のマスコミでの「教師のブラック勤務」の報道については、これからの教員のなり手不足に大きな影響を与え、日本繁栄の根幹である学校教育の継続自体が揺らぎつつあります。なによりも先生たちに余裕がなければ、目の前の子どもたちに十分な愛情、配慮、指導といった教育活動ができなくなるおそれも出てきます。そのために「働き方改革」を実行する必要があります。以下のごことにご協力ください。

① 電話等の時間帯

教職員本人の承諾や事前の約束、緊急時や特段の事情がある場合を除き、原則、授業中や勤務時間外に、教職員を訪ねたり、電話をしたりすることはご遠慮ください。保護者の皆様は、欠席等の連絡には安心メールシステム（すぐーる）をご活用ください。（時間外の電話については、翌日以降の折り返しになる場合があります。）※夕方17：30～翌朝7：30までは録音機能なしの留守番電話になります。

② 休日や放課後の対応

登下校を含む学校管理下（教育活動中）で生じたこと以外については、原則、学校では対応できません。下校後にご家庭や地域で生じた問題やトラブルについては、学校ではなく、関係するご家庭や店舗、子どもの活動を管理している地域団体、もしくは状況に応じて児童相談所、消防署、警察署等の関係機関にご相談、ご連絡ください。土・日・祝日などの休業日や16：40以降の学校敷地以内でのけが等は、学校に教職員がいても、原則、対応はできません。

●学校では、限られた人的資源、物的資源を有効に活用しながら教育活動を行っています。多くの子どもの指導を限られた数の教職員で行っているため、教職員が特定のお子さん一人だけに常時付き添うことはできません。安全上、必要な場合には、保護者の方等に常時見守りをお願いいたしますので、ご協力をお願いいたします。

これからも本校では、保護者・地域のみなさまのご理解とご協力をいただきながら、子どもたちのよりよい学校の教育環境を整えていく取り組みに努力を惜しむことはありません。ぜひ、これらのことにご理解・ご協力いただき、田迎小の子どもたちに質の高い教育を保証できますようよろしくお願いいたします。